

小学校家庭科における消費生活領域の授業開発

—商品選択と計画的な購入—

坂本 有芳*, 速水多佳子*,
山下 遥**, 山手 峻**, 重久 麻衣**

(キーワード: 消費者教育, 生活管理, 適切な選択, 体験的学習活動)

1 授業開発のねらい

社会経済活動における消費活動の存在感が増している(消費者庁, 2016)。家計が支出する消費額の総額は国内総生産の約6割を占め, 消費者は事業活動を大きく左右する存在である。消費者の選択が様々な点を考慮されたうえで合理的になされれば, 商品・サービスを販売する事業者もそれに応えるべく品質向上に努めなければならない。消費者の選択眼が甘く, 気まぐれで流行ばかりに左右されるようであれば, 事業者は一時的な興味を満たすだけの商品・サービスを開発することになる。多様な商品・サービスがあふれ, 消費者に自立が求められるようになった現在, 消費者は適切な選択をする力を磨くことが求められている。

適切な選択をする力は, 生活を設計・管理する能力との関連が大きい。消費者教育の体系では「環境」「安全」「契約」「情報」4つの重点領域が示され, 適切な選択は生活を設計・管理する能力とともに「契約」の領域に含まれる(消費者庁, 2013)。小学生の消費行動を実証的に検討した先行研究でも, 適切な商品選択の力は金銭を管理する力との関連がきわめて大きいことが示されている(御川, 2016)。商品選択の学習は, 金銭管理とともに行うことでより効果的になることが考えられる。限りある金銭と向き合うことで, 商品・サービスの選択眼も自ずと厳しいものになるであろう。

小学校家庭科の消費生活領域では「身近な生活における消費と環境の学習を通して, 物や金銭の使い方への関心を高め, 環境に配慮することの大切さに気付くとともに, 物の選択, 購入及び活用に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け, 身近な消費生活や環境をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てること」(文部科学省, 2008, p58)をねらいとしている。

指導上の配慮として重要な点は, 1) 常に自分の生活との結び付きに気付くようにすること, 2) 主体的に学習し,

実践できるようにする, という2点である。

以上をふまえ, 平成27年度の大学院授業科目「教育実践フィールド研究」では, 消費者の選択する力につながる「金銭の使い方や物の選び方」に関する授業実践をおこなった。テーマは商品選択と計画的な購入を学習する実践的な活動を取り入れた家庭科の授業開発である。児童の消費実態をふまえた題材を用いることに力点を置き, 授業内容および方法の効果を検討した。授業実践においては鳴門市鳴門西小学校にご協力いただいた。

2 研究方法

平成27年度「教育実践フィールド研究」の受講生は3名であり, 大学院修了後に小・中学校教諭となることを目指している。授業担当者2名は, それぞれ生活経営学と家庭科教育学を専門としている。本研究は, 鳴門市鳴門西小学校の家庭科担当教員1名, 授業実践を行う6学年の学級担任1名を合わせて, 合計7名で取り組んだ。

実践研究は, 以下の手順で実施した。

- 1) 学習指導要領解説の消費生活領域に関する指導内容の整理と確認
- 2) 消費生活に関する指導実践例の収集
- 3) 鳴門市鳴門西小学校での授業観察
- 4) アンケート調査による小学生の消費行動・意識の把握
- 5) 学習指導案の作成と授業方法の検討
- 6) 授業実践
- 7) 事後調査の実施と分析
- 8) 成果の考察と今後の課題の検討

授業成果の考察は, 授業中の児童の発言や態度を観察するとともに, 授業後のアンケート調査により消費行動・意識を数値化して把握した。アンケート結果は事前調査の結果と比較するとともに, 自由記述内容についても評価した。

*鳴門教育大学自然・生活系教育部

**鳴門教育大学大学院生活・健康系コース(家庭)

3 授業実践

(1) 指導内容とねらい

授業実践の計画にあたり、指導要領解説（文部科学省、2008）と家庭科の教科書（渡邊他、2010；櫻井他、2010）、消費生活に関する指導実践例の収集を通じて、消費生活領域のねらいと指導内容を整理した。小学校の消費生活領域では、「物や金銭の使い方と買物」として物や金銭の大切さ、計画的な使い方、身近な物の選び方、買い方について学習する。具体的な内容として、「限りある物や金銭を活かして使う必要性や方法を知り、計画的な使い方を考えること」および「購入しようとする物の品質や価格などの情報を集めることを通して、物の選び方や買い方を考える」ことが示されている。

実践例では、文房具の購入を想定した情報収集・比較や、調理実習のための材料を揃えることを目的として、予算内での買い物計画や商品選択について学ぶ事例がみられた。指導内容の整理により、本実践では a) 情報を比較する、b) 環境に配慮した商品を選択する、c) 予算内で購入計画を立てる、という3点の内容を含む授業設計を行うこととした。

(2) 児童の消費行動の把握

授業実施に先立ち、対象校および近隣の小学校4-6年生を対象におこなわれた、児童の消費行動に関するアンケート調査から児童の消費実態を把握した。調査によると、6割強の児童がこづかいをもらっており、自分のこづかいは「コンビニエンスストア」（72%）や「自動販売機」（71%）で使うと答えた者が多い。購入するものは「お菓子・食べ物」（59%）が最も多く、次いで「文房具」（50%）、「友人・家族へのプレゼント」（47%）等

となっている（御川、2016）。教科書に掲載されている代表例は文房具の購入であるものの、購入頻度は高くなく、学校で指定の物があるなど、児童が選択に関わる場面は少ないようだ。実際に多くの児童にとっての身近な消費行動とは、コンビニエンスストア等でお菓子を買ったり、自動販売機で飲み物を買ったりすることだろうか。がえた。

商品選択の際に考えることとしては、「値段を見てから買う」「単価（1つあたり）の値段を考えて買う」「同じような商品を比べてから買う」が「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が高いものの、「包装ができるだけ少ないものを選ぶ」「エコマークがついているかどうか確かめる」では該当する児童の割合は2割程度と少なかった（御川、2016）。買い物の際に、環境に配慮した選択を行う意識を育むことが大きな課題のひとつであることが浮かび上がった。

(3) 教材の設定

児童の消費実態より、身近な消費行動として菓子・飲料の購入場面を想定しながら、児童が実感を持って主体的に取り組める教材を検討した。その結果、a) 情報を比較する、c) 環境に配慮した商品を選択するという2つの内容に対して、コンビニエンスストアで飲料を選ぶ場面を想定した授業を第一時間目に行うこととした。第二時間目では、前時に学んだ内容をふまえた上で、b) 予算内で購入計画を立てることが実践的に学べる教材を検討した。対象が小学6年生であり、卒業を間近に控えていることから、ホームパーティを行うことを想定した班活動を計画した。

授業の流れと内容は表1のとおりである。

表1 授業設計

授業時間	方 法	内 容
1時間目	1) コンビニエンスストアの棚の写真から飲料を選ぶ。 2) 班でホームパーティを行う場合を想定し、飲料を選ぶ。	a) 情報を収集し比較する。 c) 環境に配慮した商品を選択する。
2時間目	1) 予算内でホームパーティの購入計画を立てる。 2) 計画に記入した商品写真を疑似購入する。 3) 購入した商品の写真を用いて画用紙上にレイアウト作品を作る。	b) 予算内で購入計画を立てる。
	学習内容を振り返るアンケートを記入する。	授業成果を把握する。

(4) 授業の実際

授業は、鳴門西小学校6年生2クラス（計56人）を対象として、平成28年1月に45分間の授業を2時間連続で家庭科室において実施した。2日間にわたり、各クラス2時間ずつ授業実践を行った。授業者は1回あたり大学院学生1名が担当し、2名が授業補助者として参加

した。

【1時間目】

授業目標

時と場合に応じた金銭の使い方や選び方を考え、工夫することができる。

授業の導入として、日常生活を送る上で買い物が欠かせないことを実感させ、買い物の仕方を学習することへの興味を増すことをねらいとし、どのようなものを最近購入したかについて問いかけを行った。

① 飲み物を選んでみよう

導入の後に、コンビニエンスストアの飲み物が陳列されている棚の写真を各班に1セットずつ配った。写真は了解を得た上で近隣の店舗で撮影して用意した。児童は買い物の場面を想定し、写真の中から飲み物を各自1つ選び、選んだ商品と選んだ理由をワークシートに記入した(写真1)。自分の生活と結びつけた取り組みとなるよう、実際に近隣店舗に並んでいる商品の写真であることを伝えた。全員が飲み物を選び終わったところで、選んだ飲み物とその理由、飲み物の入っている容器の種類、容量をたずねた。

児童は積極的に挙手し、多くの児童が発表した。同じ商品を選んだ児童がほとんどみられず、個人によって選択が異なり、選ばれた商品はジュースや炭酸飲料、スポーツドリンク、コーヒー・紅茶、乳飲料、野菜ジュースなど、実に多種多様であった。選んだ飲料に使われている容器も、ペットボトル、紙パック、プラスチックカップ、瓶など様々であった。容量は個人で一度に飲みきれる300～500mlサイズのものが多かったが、1リットルの紙パック入りを選んだ児童もみられた。選んだ理由は、大半の児童が「美味しそうだから」「飲みたいから」と、個人の嗜好に一致していることを挙げていた。少数の意見として「安くてお得だから」「体によさそうだから」などがみられた。



写真1 飲み物を選ぶ班活動

② じょうずな買い物

つぎに、「じょうずに買い物をするための4つの手順」を示した用紙を教壇のホワイトボードに張り、ワークシートへの記入を促すとともに、それぞれの段階で留意すべきことについて説明をおこなった。

買い物の手順として「1. 計画を立てる」「2. 品物を選ぶ」「3. 買う」「4. 振り返る」という4つを確認するとともに、「1. 計画を立てる」「2. 品物を選ぶ」という買う前の段階ですべきことについて、具体例を挙げながら説明した。特に「2. 品物を選ぶ」段階では、「容器・包装を確かめる」「飲みきれる量を買う」「エコバッグを持参する」など、資源を大切に選択方法について、ワークシートに説明を記入しておくとともに、実物も示しながら解説した。

実物を用いた説明では、飲料にはペットボトルだけでなく、瓶や紙パックなど様々な容器があること、容量にも違いがあることを伝えるとともに、希釈タイプや粉末などの商品もあることを紹介した。菓子にも同じ内容で容量や包装の異なる商品があること、小容量や個別包装タイプでは大容量のものに比べてゴミが多く発生することを知らせた(写真2)。

買い物の手順の説明の後に、次の時間でホームパーティの計画を班毎に立てる活動をすることを伝え、ホームパーティのテーマと飲み物を決める話し合い活動を行った。班で重視した選択方法のポイントを明らかにすることにより、飲み物という同じものであっても、場面が違えば選択も異なることを確認した。第一時間目の最



写真2 包装によるゴミ量の違いの説明

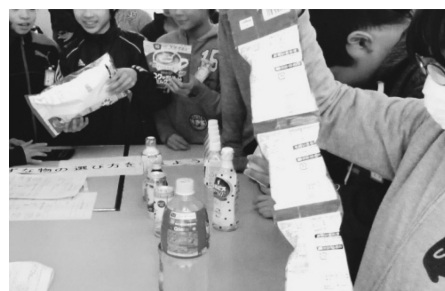


写真3 実物を手に取り包装の確認

後には、「飲み物を選ぶときに、これまで考えていなかったこと、新たに気付いたことは何ですか」とたずねたワークシートに、自由記述を求めた。

表2 班活動で用いた計画書

【2時間目】

授業目標

身近な物の選び方や買い方を考え、様々な情報をもとに適切な購入の計画を立てることができる。

第二時間目は、ホームパーティを行うことを想定し、予算内で購入計画を立て、疑似体験で購入した商品の写真を用いて画用紙上にレイアウト作品を作る班活動を取り入れた演習を実施した。使用した教材と授業の流れは次のとおりである。

③ 予算内での買い物計画

最初に5人1班あたり5,000円を予算とし、教材用に作成したチラシの中から商品を選び、購入数量と合計金額を記入して、ホームパーティ計画書(表2)を完成させる活動を行った。計画書には、計算をしやすいよう商品名と単価をあらかじめ記載しておき、購入数量と合計金額を書くスペースを設けた。計画書およびチラシに掲載した商品は、飲み物、ケーキ、ピザ、オードブル、からあげプレート、おにぎりプレート、お菓子、使い捨て食器である。

児童が自分の生活と関連づけられるよう、いずれの商品も近隣の店舗で実際に販売されているものを調べたり、身近な小学生から好みの菓子や食べ物を聞いたりしながらリストアップを行った。チラシを作成する際には、実物の写真を撮影する、チラシを読み込む、インターネット上で公開されている画像を利用するなどして、商品の内容が視覚的に伝わるよう作成した。各商品の価格は、実際の販売価格を調べた上で、端数を四捨五入するなどして計算しやすいものに設定した。

児童は積極的にパーティのために購入するものを考え、班員と意見を交わしながら計画書を作成していた。全員の意見と取り入れようとする班が多くみられたり、リーダー主導で決まっている班もみられたが、教員は決め方について介入することなく質問に応じるに留め、児童の活動を見守った。予算内に収まるかどうかを確かめる手順では、合計値を算出する際に筆算を行っていたため、いくつかの班で計算が合わず、計画書完成に多くの時間を要することとなった。

④ 商品の入手と作品づくり

各班で計画書を完成次第、教員の元に提出するよう求めた。教員は計画書に書かれた数量や小計が合っているか、予算内に収まっているかどうかを確認した上で、計画書に記載された商品写真を各班に渡した(写真4)。写真印刷用の厚紙に商品を印刷して形どおりに切り取った

☆ホームパーティ計画書☆

テーマ:			
●買いものリスト			
品物	単価	個数	合計
飲み物			
・500ml(お茶、ジュース)	100円		
・2L(お茶、ジュース)	180円		
・1L(紙パック)	100円		
・カルピス(徳用タイプ)	300円		
・ココア(粉末タイプ)	400円		
ケーキ			
・イチゴチョコレートケーキ	3000円		
・イチゴチョコケーキ	3000円		
・季節のフルーツタルト	2500円		
・モンブラン	2700円		
・ココロジャンデリー	3000円		
ピザ			
オードブル	1600円		
	2000円		
からあげプレート	1500円		
おにぎりプレート	1000円		
お菓子			
・じゃがりこ	100円		
・ポッキー	150円		
・カントリーマアム(22枚)	300円		
・ハッピーターン(120g)	200円		
・ポテトチップス	100円		
・BIGポテトチップス	200円		
・エンゼルパイ(8個)	300円		
・パイの実(133g)	300円		
紙コップ(50個入り)	100円		
紙皿(5枚入り)	100円		
フォーク(10本入り)	100円		
わりばし(50本入り)	100円		
買った物の合計			
残金(予算-合計)			

ものを用意し、裏に両面テープを貼っておくことでレイアウト作品作りが容易に行えるよう準備した。

児童は疑似購入した商品写真を、薄オレンジ色の4つ切り画用紙を台紙として好みの場所に貼り付けるとともに、マジックペンで絵や飾りを書き加え、ホームパーティ



写真4 計画書の確認と商品画像の受渡し



写真5 レイアウト作品

のテーブルを模したレイアウト作品づくりを行った（写真5）。台紙の画用紙には、班で決めたテーマ、購入計画の合計金額を記す欄をあらかじめ設けておき、これら2項目の記入を求めた。

⑤ グループごとの発表

最後に、1班1分の持ち時間で、各班のレイアウト作品を紹介しながら、テーマと合計金額、計画の際に気をつけた点、大変だった点を発表する場を設けた。同じ予算でも様々な選び方があることへの気づきとなるよう、班によって様々な観点で計画がなされていることを指導者側からの助言を通じて共有した（写真6）。

発表者をあらかじめ決めておくよう指示していなかったため、スムーズな流れとはならなかった。児童から出された意見として、「ゴミの量が少なくなるよう考えた」「予算ギリギリいっぱい使った」「卒業のお祝いなのでケーキを入れた」「お腹がいっぱいになるようにした」などがあった。



写真6 計画と作品の発表

4 授業効果の検討

ここでは、授業中の児童の様子やワークシートやアンケートに記述された内容から、授業効果を検討したい。

(1) 活動全般

2時間を通して、意欲的で主体的に授業に臨む児童の姿がみられた。第1時間目では、児童は授業での説明に熱心に聞き入り、いずれの活動も真剣に取り組んでいた。休憩時間には多くの児童が自発的に教壇周辺に集まり、商品を手にとって包装や表示を確認している様子もみられた（写真3）。第2時間目の授業についても、班員同士で積極的に意見を出し合い、協力しながら主体的に班活動に取り組む児童がほとんどであった。

授業後アンケートで活動にしっかりと取り組んだかどうかについて自己評価を求めたところ、「よくできた」が89%に達した。自主的、主体的な取り組みという点では、効果的な授業が行えたと判断できよう（図1）。

活動にしっかりと取り組んだか

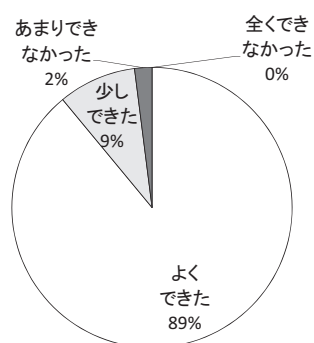


図1 学習活動への取り組み

また、授業後アンケートの自由回答欄には以下の記述がみられた。

- ・みんなの好きな方を、多数決できめて、みんなが納得するのを考えました。
- ・みんなの意見を交換したり、多数決で決めたりしました。
- ・みんなの意見を、一人一人聞いて使った。
- ・楽しく盛り上がるようなメニューにした。みんながほしい物を入れた。
- ・置く場所が、「このほうが良いと思うよ」など（意見交換することで）よくなっていきました。

自由回答に挙げられているように、班として満足のゆく計画やレイアウト作品ができるよう、班員同士の意見を交換し合い、様々な意見を考慮することができたといえる。話し合いや共同作業が意欲的に行われたという点でも、効果的な授業が行えたと考えられる。

(2) 情報の比較

授業後アンケートで、「(授業活動で) 同じような商品を比べましたか」とたずねた設問に対し、63%の児童が「よくできた」を選択し、「少しできた」の35%と合わせると肯定的回答が98%にのぼった。授業の半年前に実施したアンケートで普段の消費行動をたずねたところ、「同じような商品を比べてから買う」は、「よくする」が49%、「たまにする」が28%と肯定的回答の合計は77%であったため、肯定的回答の割合は2割程度多くなっている（図2）。

「単価（一つあたりの値段）を考えましたか。」と授業後にたずねた結果では、「よくできた」が65%、「少しできた」が24%と肯定的回答の割合は約9割と大半を占めた。半年前にたずねた消費行動では肯定的割合が8割弱であったことと比べると、単価の検討についても肯定的回答の割合は多くなっている（図2）。

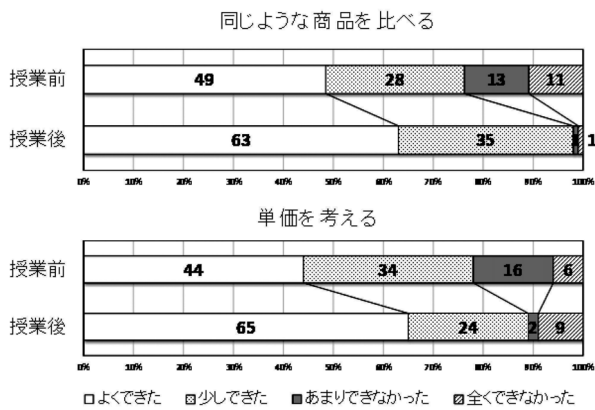


図2 情報の比較

- 自由記述欄には、以下の内容がみられた。
- ・単価のことも気にしたいと思います。
 - ・単価のことを考えてカルピスウォーターを希釈タイプを選んだ。
 - ・みんなで分けると500mLを何本か買うより、2Lを買う方が安い。
 - ・ケーキのねだんが高かったのでやめて、ピザやお菓子をを買ったりした。
 - ・飲み物を選ぶときには、何円か、どのくらいの量なのかゴミはどのくらいか、などを考えるようにしたい。

自由記述内容からも、いくつかの飲料や菓子を比較検討する、単価を考えることが意識できていたことが読み取れる。情報の比較については、大半の児童が授業活動でしっかりと取り組むことができたといえよう。

(3) 予算内での購入計画

次いで予算内での購入計画についての効果を検討したい。授業後のアンケートでは「予算内で計画できましたか」という問いに対しては「よくできた」と回答した割合が95%にのぼり、「少しできた」の4%と合わせてほぼ全員が肯定的回答をしていた。「値段をよく見ましたか」に対しては授業後のアンケートでは「よくできた」の割合が84%、「少しできた」が16%と肯定的割合が100%に達した(図3)。

ただし、「値段をよく見る」ことに対しては、半年前のアンケートでも「よくする」の割合が90%に達しており、大半の児童がすでに行っていたものである。値段の確認を「あまりしない」「全くしない」という児童が少数存在していたのが、授業内では全くいなかった点を本授業の効果とすることができよう。

自由記述欄に記された代表的な内容は、以下のとおりである。

- ・できるだけ安くして買った。
- ・ジュースは、そんなに飲まないで、必要な分だけに

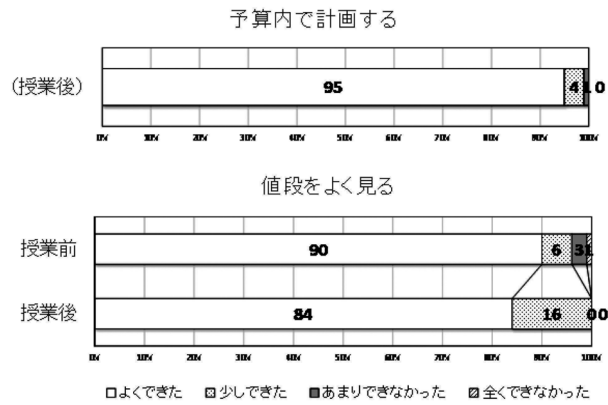


図3 予算内での購入計画

- した。
- ・計画を立てて、予算内でできるように気をつけたいと思います。
 - ・予算オーバーしてしまったので工夫して、普段の買い物に活かしたい。
 - ・限られた予算の中で、物の値段を見ながら買わなければならないと気づいた。
 - ・好きな物だけ買っていたことが多かったけど、値段にも気をつけて買うことや、計画を立てて品物を選ぶことが大切なんだと思いました。
 - ・目的や何をかう、予算などを決めるなどを知って、これからは、それを思い出して、買い物などを、していきたいです。

多くの児童が自由記述で買い物の計画、予算を考えることについて記していた。授業中も、多くの児童が商品の価格をにらみながら予算内におさめるよう、活動を通じて知恵をしぼっていたこともあわせて考えると、予算内での購入計画は今後の生活でも活かすべき点であると、多くの児童が学びを得たことがうかがえる。

(4) 環境に配慮した商品選択

最後に環境に配慮した商品選択についてである。「ゴミができるだけ少なくなるよう考えましたか」という問いに対しては、「よくできた」が35%、「少しできた」が31%と肯定的割合は7割弱であった。情報の比較や予算内での購入計画にくらべ、肯定的回答の割合は低い傾向にある。もっとも半年前のアンケートでは、「包装ができるだけ少ないものを選ぶ」に対し、「よくする」はわずか7%、「たまにする」も22%と肯定的回答の割合は3割に達していなかった(図4)。このことを考慮すれば、授業内では多くの児童が商品選択の際に、環境に配慮するという視点を取り入れることができていた。

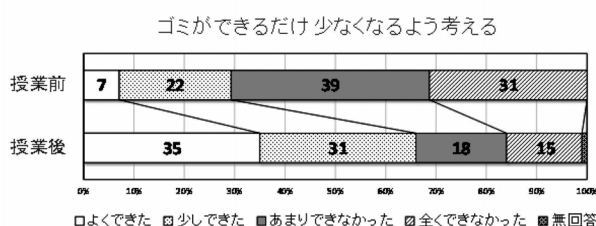


図4 環境に配慮した商品選択

自由記述欄で見られた内容は、以下のとおりである。

- ・希釈タイプは環境にもお財布にも優しい。
- ・ゴミを増える選択を今までしていたので見直したい。
- ・「安さ」も大切だけど、「環境」のことをよく考えて、買うときにもマイバッグを持っていったりしたい。
- ・これからはゴミと環境のことも考えて、その時にほしいものだけ買わず、考えて買い物をしたい。
- ・飲みきれぬ量を選ぶようにしたい。
- ・いままでゴミの多い少ないは考えて来なかったが、これからは考えて買い物をしたい。

ここに挙げられているように、自由記述欄には、ゴミの量や環境について触れている記述が数多くみられた。環境に配慮した商品選択については、これまでは多くの児童が無意識段階にあったが、授業を通じて関心段階には移行できた様子が見えてきた。

5 総括および今後の課題

本稿では商品選択と計画的な購入について、実践的な活動を取り入れた授業開発の概要をまとめ、授業効果を検討した。自主的、主体的な取り組みという点、話し合いや共同作業が意欲的に行われたという点で、効果的な授業が行えた。1) 自分の生活との結び付きに気付くようにする、2) 主体的に学習するという、指導上の配慮は十分に行えていたと考えられる。ここで成果を考察するとともに、改善点と今後の課題について述べたい。

(1) 成果の考察

飲料やお菓子の選択といった児童に身近な題材を扱ったこと、ホームパーティへの関心も高いと思われる小学校6年生の卒業間近な時期に授業が行われたことは、自分の生活と結び付けて主体的に取り組むうえで有効に働いたであろう。また、購入計画書とレイアウト作品を仕上げるという明確な目標があったことは、話し合いや共同作業が意欲的に行われた大きな要因といえよう。

授業内容 a) 情報の比較、b) 予算内での購入計画については、小学校の近隣にあるコンビニエンスストアやスーパーマーケットで取り扱っている実際の商品を提示し、商品を実際の販売価格に近い値段に設定したことが

効果的だったと思われる。また、飲料の選択を個人とグループの2場面を設定を変えて考えさせたことは、時と場合に応じた商品選択方法の確認につながった。情報を比較することや予算内で計画を立てて買い物をすることの大切さを児童に気付かせる上で、日常生活と密着した実践的な活動をおこなうことが自分の生活との結びつきを考える上で鍵となると考えられる。

c) 環境に配慮した商品選択についても、実感を伴って容器・包装の違いや量に気づかせる上で、様々な種類の商品の実物を提示したことが有効だったといえる。授業目的を達成するうえで、児童の関心や消費実態をふまえることを重視した実践的教材が効果を発揮したと考えられる。

(2) 授業の改善点

授業の改善点として、指示の伝え方を中心にいくつか残された課題がある。まず、導入部分の問いかけでは、十分に児童の意見を引き出せなかった。多くの児童が発言しやすく、買物が日々の生活に欠かせないことを実感させる発問を考えてゆく必要がある。

また班活動では、意欲的な取り組みがみられたものの、班による進捗の差がみられた。机間指導を充実させ、班員の役割分担をうながすことが重要となろう。計算書の記入方法や計算方法に対する説明を補足する、電卓を用意しておくなども、進捗の遅い班への支援として求められよう。

最後の発表がスムーズに行われるためにも準備が必要であった。あらかじめ発表担当者を決めるよう指示する、発表のポイントを明確に伝えておくなどの対応が班活動の一環としてなされるべきであった。

以上の点を改善してゆくことで、授業活動がより一層充実したものになると考えられる。

(3) 今後の課題

今後の課題として2点を挙げておきたい。1点目はICTを活用した教材の開発である。今回の授業では、大学院生が時間をかけて下調べを行い、商品や店舗の写真を用意し、チラシやレイアウト作品用の商品画像など様々な教具を作成した。ワークシートや掲示資料の作成も含め、準備には3人がかりで膨大な時間を要した。このため、実際に学校現場で同じ授業を実施することは容易でないと思われる。さらに、レイアウト作品作りのために多量の印刷物を用意することとなったことは、環境への配慮を考えると再考したい点である。教員に多くの負荷をかけず、使い捨て用品の使用を防ぐためには、ICTを用いて同様の教材を開発することが理想と考える。

2点目の課題は、児童の日常生活での実践に結びつく授業を開発するとともに、日常生活行動の変容を把握す

る研究を進めることである。本報告の実践例では授業によって児童に気づきをもたらしたとはいえものの、実際に児童の買い物行動が変化したのかどうかは分からない。消費者教育では気づきを促すだけでなく、実際の消費行動がよりよいものに変容するものが求められよう。いかに行動変容を促すか、行動変容をいかに把握するか、という両面から研究を進めてゆくことが、今後の大きな課題である。

謝 辞

本授業の実践にあたり、鳴門市鳴門西小学校の加藤寛司校長先生、川西仁美先生、藤森弘子先生、前田晴雄先生、平成27年度6年生の皆さんに大変お世話になりました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

文 献

- 1) 消費者庁『消費者白書』, 勝美印刷, 341p., 2016.
- 2) 消費者教育の体系イメージマップ <http://www.caa.go.jp/kportal/search/pdf/imagemap.pdf> (アクセス確認 2017. 1. 29)
- 3) 御川明日香, 小学生の望ましい消費行動についてー計画的な金銭管理に着目してー, 卒業論文(鳴門教育大学学校教育学部), 71p., 2016.
- 4) 文部科学省, 小学校学習指導要領解説家庭編. 東洋館出版社, 77p., 2008.
- 5) 渡邊彩子監修, 岡野雅子, 甲斐純子, 勝田映子, 川上梅, 岸田蘭子, 杉山久仁子, 鈴木明子, 中西雪夫, 浜島京子, 南佳子『新しい家庭 5・6』東京書籍, 113p., 2010.
- 6) 櫻井純子, 内野紀子, 鳴海多恵子, 相場郁子, 秋永優子, 天野晴子, 生野晴美, 石井克枝, 伊藤圭子, 伊波富久美, 岩田光江, 小野恭子, 表真美, 加藤悦子, 木村範子, 小西史子, 坂本廣子, 菅原悦子, 多々納道子, 中井昌子, 長井梢, 中村喜久江, 西村敬子, 野田文子, 林瑠美子, 日景弥生, 堀内かおる, 町田万里子, 開隆堂出版株式会社編集部ほか『わたしたちの家庭科 5・6』. 開隆堂, 109p., 2010.